

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぱらネット

第14号



▲講演する毛塚シェフ

「障害者週間」市民の集い 本日の次第

司会挨拶
 さいたま市保健福祉局 局長 盛 聖
 さいたま市障害者協議会 副会長 浅輪 田鶴子
 輪を広げる障害者理解促進事業」表彰式
 第4回全国障害者スポーツ大会」結果報告
 「通して福祉に心温まる一皿を」
 『智之氏 パレスホテル大宮 統括シェフ
 与野東中学校吹奏楽部
 合唱団(混声)

20年度「障害者週間」市民の集い
 「のある人もない人もともに生きる社会を目指して」

右から今井三咲貴さん(ポスター)、竹内文音さん(作文)、
 盛 聖 保健福祉局長、竹内恒太君(作文)、早川紗季さん(ポスター)

みんなが楽しんで「市民の集い」
 平成二十年度障害者週間記念事業
 十二月二十九日(土) 於 与野本町コミュニティセンター

午前中の式典では、「心の輪を広げる障害者理解事業」の作文とポスターの優秀作品の表彰がありました。また、シェフという仕事を通して障害者雇用、作業所のクッキー販売や製作にご活躍いただいているパレスホテル大宮の毛塚智之氏に「食を通して福祉に心温まる一皿を」という記念講演をいただきました。

回を重ねて地域に広がってきたか 私たちの思いや願い

何のため、 誰のための事業か

浅輪 五ヶ月にわたる準備と当日、みなさんご苦労様でした。

障害者週間市民のつどいを、私たちはどのように捉えて実施しているのか、楽しくなくてはいけませんが、楽しいだけではいけない。やっていく意味がどのくらい伝わっているか、な

ど少し考えてみませんか。それぞれ障害ごとに、大変なことはいっぱいあると思うのですが、できないと言わずに力を合わせていくといろんなことが見えてくると思えました。

そのあたりから田口さんどうですか。

田口 わたしも身体障害、しか

も下肢障害の一部のことしか分からない。誰もがほかのひとのことはわからないのではないかと思います。

いろんな障害の人と一緒にやることによって分かるようになるのだと思うんです。身体でも視覚障害と下肢障害と全くちがうことがありますから。

浅輪 私にしても、宮部さんにしても自分が障害者でないためによくわからないということがあるんですね。

気づきというのが大切で、一緒に仕事をしていく中で自然にわかることがたくさんありますよね。

今回、前回失敗した体験コーナーについて、盲導犬の話が出て、三十分ぐらいでもいいから

〔出席者〕

田口秀之助 (さいたま市身体障害者福祉協会)

渡邊シツ子 (NPO 法人さいたま市障害難病
団体協議会)

高橋 一男 (さいたま市身体障害者福祉協会)

宮部 幸子 (さいたま市手をつなぐ育成会)

末吉 俊一 (精神障がい者当事者会ウィーズ)

(司会) **浅輪田鶴子**

盲導犬ってこういうものですよというお話をしていただけないかと盲導犬を使っている方をお願いしたら、私は盲導犬と一緒に生きているので講演というちゃんとした形でしたいといわれてしまったんです。

人が懸命に生きていることを手軽に考えてはいけないうんと反省。そういうことこそ言っていたいただきたいこと、言われないとわからないから。



お願いした方は主婦で、盲導犬を使って生活し、お子さんを育てていらっしゃる。そういう意味ではいろんな視点から障害というものを話していただけるのではないかと、お断りいただいた瞬間、来年の講演の候補にしたいと思いました。

渡邊 お互い一体化するのは時間がかかるというのを勉強しました。

浅輪 どんな形にせよそのひとがそんなふうにしてちゃんと生きていくということが大勢の人に感じてもらいたい。

それをうちうちだけでなく外に広げようという取り組みがこの催しですが、そのへんがまだまだだなあと感じですね。

楽しかったステージ

浅輪 今年の企画はおおよそのことは好評だったような気がしますが、問題点はなかったでしょうか。

マスコミ対応ですが、末吉さ

ん、手ごたえどうでしたか。

末吉 朝日、毎日、読売、記者クラブへ行っただんですが責任ある立場の人は会ってくれなかった。

渡邊 反対に埼玉新聞は記者クラブに行ってくださいと言われてた。こういった記事はしばらくたってから報道してもらってもいいんじゃないですか。

田口 年々来る人も増えているし、地道につづけていけば。今回は非常に評判がよかったです。やはり毎年続けていくことが大

切ですよ。

浅輪 一、二回やって人が集まらなかつたからってやめてしまえばそれで終りですものね。

イベントのグループが三つになつてしまつてちよつと心配したんですが、結果的には企画がバラエティに富んでいて、古い

歌が出てきたり新しい歌が出てきたり、騒がしいのがあつたり静かなのがあつたり。それでよかつたのではないかということですかね。

渡邊 具体的に言うとか心の悪



10月にチャレンジ大分大会にさいたま市代表で行きました。

私は陸上で100メートル、200メートル、リレーにでました。100メートルは2位、200メートルは1位、リレーは6位でした。リレーは4人で走りました。

11月29日にコミセンでチャレンジ大分大会のほうこくをしました。私は金メダルと銀メダルを首にさげて、あかいユニフォームをきてほうこくしました。

うれしかったです。

金子由実

反省会から...



会場 会場設営の問題、会場の場所的な問題について

●一般の方が来られる会場としてはここが一番いい。駅から近いし駐車場もある。全館貸しきりですし、よかつた。

●去年と今年の違いは、今年は非常にりっぱな舞台を作つたこと、昨年は会場を分割してセレモニーをやつた。

企画

セレモニー

●作文は感動的で客席で泣いている人もいた来年もやりたい。

●スポーツ大会はプロジエクター使用で様子がわかりよかつた。

●障害者製作品の展示は記念品がないためか作品が減つてしまった。PRが必要。二会場でもやる予定が一会場になつた

毛塚氏講演

●講演はとてもよかつた。エプロン、帽子姿がよかつた。

●エプロン姿はプロ意識の表れ。「障害者だからではなく、本当においしいから売れる」

大宮駅のエキキュートのなかで授産

い人は外に出ていました。あの規模の会場だったらそんなにサウンドを入れなくてもよかったんじゃないでしょうか。

末吉 高齢の人が多いということだったので埼玉合唱団には「高原列車はいくよ」を入れたほか、子供向けの曲、老人向けの曲を用意していただきました。

田口 ゴスペルは派手でよかったですね。

衣装もきれいで、視覚にも訴えるものがあった。

宮部 ゴスペルの人の人は「希望のまち」を歌うことしたとき、手話を使って歌いたいが自分たちの手話を見て欲しいということで、聴覚障害者協会の専門家に勉強に来てくださったんです。

それと、実際に歌うとき、ステージを降りて客席に入ってくれたのがとてもよかったと思います。

浅輪 与野東中学校のブラスバンドも西関東地区で優勝したそ



うですが、三年生が抜けて、一、二年生の演奏だということでしたが堂々としていて、ジャズの楽しさが伝わってきましたね。

経験を積み上げたい

浅輪 宮部さん、二年続けて司会でしたが、なにか感じたことはありますか。

宮部 一番最初するときには何が

なんだか分からない状態で始まってわあわあ言っているうちに終わったという感じでしたね。二回目は前回やった全体が頭に入っていたので一年目とは違っていました。

障害者協議会が主になって各障害者団体がみんな集まって一緒にやっていくことの意義とか目的とか、今年はこちらとそんなものを考えることができたような気がします。

私は知的障害の人の親なので他の障害の方たちとの関わりも浅いんですが、一年経って会議のときから自分の名前を言ったりから意見を言うってくださいますか、そういう細かいことがどうしてやらなきゃいけないかをひとつずつ自分のなかでは消化できたので、その上で障害者週間

がある意味というのもだんだん自分のなかで整理されてきてきたので、関わらせていただいていたかなと思えました。

高橋 二年続けてやってもらっ

製品を置いてもらえるぐらいの工夫、レベルアップの研究が各施設や作業所が必要。

与野東中ブラス

●レンタカーを借りて楽器を運んで、また学校に返した。それで一日終わったという感じだった。楽器を運ぶのは大変だったが、ブラスの演奏の評判はよかったみたいだ。先生はできれば来年も出演したいと。グリーンフィンガーズのケーキも好評で先生が「障害者の施設の方々が作ったケーキです。味わって食べてください」と一声かけてくれた。みんな喜んでた。生徒たちも来年も出演したいと言っていた。

ゴスペル

●黒の服にオレンジのスカーフで目をひいた。踊り、手話つきで会場が一体になってよかった。ゴスペル出演者から楽しかったので来年も是非参加したいと言われた。

イベントについての他の意見

●なるべく早めに曲名と歌詞を出していたかかないと要約筆記のロール紙に書く準備ができない。今年是要約筆記奉仕員が当日頑張って歌詞を書いてくれた。来年は早く出していただくようにする。



たので、司会者の位置、手話通訳の位置などについても意見を言ってもらってよかったです。

浅輪 司会をやる人は、状況のわかっている、気持ちの入っている人がいいということ。

田口 しかも宮部さんは楽しんでくれるからいいなあ。この人で決まりと思った。

浅輪 宮部さんは障害者本人で

はないですね。仮にですが、司会を宮部さんと視覚障害の方の二人が掛け合いみたいにやったらどうでしょうね。例えばHさんは自分が見えなくて主婦で子育てしながら生活している。宮部さんがHさんの見えないところはいまこうなんですよとフォローする。障害のある人は何もできないのではなくて支えがあればできるんだということを示せるといいなと思ってるんですけど、無理ですかね？

末吉 考える余地はあると思うんですが。

浅輪 毎年毎年少しでもいいから何か積み上げがあつて少しずつでもいいからああこういうこともできるんだなということが見えてくると、一つ前進したな、一つ積み上げたなという感じがある気がするんですが。

宮部 自分の中では積みあがっているんですけど。

浅輪 見えない人にわかるような説明というのは難しいでしょ

うね。自分たちが見えちゃって

いるから。

田口 そこまでやると今度聴覚障害の人はまた逆だからまた難しいことがあるんじゃないですか。宮部さんのはかなりアドリブがはいっていいよかったですよ。

準備がたいせつ！

浅輪 車椅子の体験コーナーはどうでしたか。これこそ外向きの企画でしたけど。

渡邊 名簿がありますが親子三人で体験した人がいたんです。家族揃って体験して、感心です。

高橋 いつとき十人くらいいたときがあった。

宮部 体験コーナーも昨年は限られた部屋の中だったので、そこから飛び出して北展示ロビーでやったというのは成功だったと思うんですね。

高橋 去年は一つの部屋で入口も小さくて、どこでやったか分からなかったのから見ればよか

マスコミ関係

●読売新聞、埼玉新聞、赤旗に案内の記事が掲載された。

物品販売

●物品販売は問題はなかった。お客さんの様子を見たかったが、トン汁作りのため見れなかった。障害者団体のイベントでは7割方仲間うち。一般の参加も増えると思う。

車椅子等体験コーナー

●北展示ロビーは暗い場所でイヤな感じだった。ボランティアの食事場所(音楽室)がかびくさかった。

その他

●駐車場係として気づいたことは与野東中の父兄が多かったが、終わったらすぐ帰ってしまった。他には電車利用者が多くてよかった。

●式典関係者は車利用が多かった。

●団体展示は他のグループの展示のやり方が参考になりました。紅葉の写真をいっぱい貼ったものなどとてもいいものがあった。来年は早めに準備して頑張りたい。写真をたくさん撮っておきます。

●楽器運搬のトラックを運転してくれる人がほしい。短距離だが道が狭くてこわい。ドラムなども分解して小さくなっているので生徒が



会場に入ったとたん、来場者数の多さと、障害をもった仲間の絵画や手芸・書など、生命力あふれる展示に、エネルギーを感じました。私たちの舞台でも、手話では、みなさん童心に戻られ楽しくやって頂いて、また♪生きて生きて生き抜いて という「人間の歌」では、涙する方も。

共に生きる社会を目指して、私たちもこれから歌い続けていきたいと思ひます。ありがとうございました。

埼玉合唱団 林 和恵

ったんじゃないかな。

渡邊 でも、照明が暗いんですよ。あの日だけでも別のライトをつければよかったのね。

浅輪 私は今回は時間が取れたので、前日から全部点検してまわりました。ドアを開けたら見えなくなるような張り紙の貼り方はしきないようとか、団体展示の様子とか。当日にバタバタしなくて済むようにね。

高橋 自分も前日行った。今年 は中央区役所の駐車場を使わな

いですんだのでやりやすかったです。

田口 そういう具合に表面に出ていることの成功のためには、準備が一番大変なんですよね。

渡邊 音楽室が定員十人でも小さく、かびくさかった。使っていないから。

浅輪 一番問題だったのはステージだったけれど、今年は低めの舞台を作ってもらったのでとてもよかったです。

田口 会場もやや狭いくらいの

ほうがひとが大勢でいいんですよ。立ち見がいるとかね。

宮部 みんなの手作り感があってよかった。来られた方も昨年より今年のほうがいっぱい入ったなと見えましたし、みんなと一体になって音楽を楽しんだなと分かった。

高橋 去年は式典が終わったら結構帰った人がいた。今年はそれがなかった。

宮部 与野東中のブラバンが終わって帰らないでくださいねと司会が言ってしまったばいと思つた。

渡邊 休憩場所があったというのはとてもよかった。

末吉 着替える場所を男女別にしたのは僕が提案したんだけどどうだった？

浅輪 よかったですよ。

来年のために、よいお話が聞けたと思います。またがんばりましょう。

ありがとうございました。

自分で楽器を持ってこれればいいが、歩きなので無理。

●物販のみやっていたので、中の様子が分からなかった。来年は交代してやってみようかなと思つている。どういふわけか聴こえない人の参加が少なかった。一生懸命いふところへ行つてPRをしたが、来年はもっとPRを呼びかけていきたい。

●肢体不自由児のために和室を用意してくれてよかった。車もすぐ停められた。開催時期は、他の行事と重なり、うちの団体の方に参加してもらえなかった。

●ボランティアにはボランティア保険を掛けているが実行委員には保険を掛けていないのでかけたらどうか。

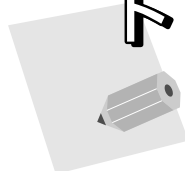
●来年は掛けたい。

●受付係は一生懸命やってくださっていた。受付の張り紙が小さくて見えにくい。来年ははっきりわかりやすい形で作ったほうがよい。

●福祉体験コーナーの看板は作っていただいた。できればもっとインパクトのある看板を作してほしい。

●予算内で工夫したい。事前にデザインを決めて業者にたのむといいと思う。

アンケートから



★回答数 七十一

回答していただいたのは五十代、六十代の女性がいちばん多かったようです。障害関係以外の方は少なく、市民の集いのタイトルに負けないよう広げて行きたいと思いました。

この事業を知ったのはという問いには、口コミが一番でした。今回のイベントは楽しかったかという問いかけには、八割以上の方が楽しかったと答えています。中でも圧倒的に印象に残ったのは、ゴスペルだったようです。聴いている人と歌っている人が一体となってとても楽しかったという感想をいただきました。その他、表彰式のきょうだいの作文朗読は、感動した、涙が出てしまったという感想がありました。

平成20年度「障害者週間」市民の集いプログラム

●大ルーム (午前10時45分から午後2時45分)

■式典

- 主催者挨拶
- 心の輪を広げる障害者理解促進事業表彰式
- 第8回全国障害者スポーツ大会結果報告会

■イベント

●記念講演 午前11時30分～

「食を通して福祉に心温まる一皿を」

毛塚智之氏 パレスホテル大宮 統括シェフ

●コンサート 午後1時～

- 合奏 市立与野東中学校吹奏楽部
- 合唱 埼玉合唱団(混声)
- ゴスペル ワッツ・ゴスペル・クワイヤー

●その他

- 障害・難病者制作品展示
- 障害・高齢者疑似体験
- 授産自主製品等販売・模擬店
- 障害・難病者団体紹介展示



が二番目は市報さいたまでした。今度のイベントは楽しかったかという問いかけには、八割以上の方が楽しかったと答えています。中でも圧倒的に印象に残ったのは、ゴスペルだったようです。聴いている人と歌っている人が一体となってとても楽しかったという感想をいただきました。その他、表彰式のきょうだいの作文朗読は、感動した、涙が出たという感想がありました。

- 今後もこのような催しに参加したいと思えますかという質問には、ほとんどの方が「また来ます」と答えてくださいました。以下に自由記述の感想を記します。
- もっと多くの人が知れるよう、「障害者週間」等の活動をアピールするべきだし、その
- 中であつと多くの協力・支援者を募ることが大切だと思つた。
- 参加する方から見た受付の振り分けや、入り口の表示などがわかりにくいと思つた。
- 食べ物の売り場が、食事する場所に近い方がよい。
- ホットコーヒーなど、飲み物を買っているときよい。
- 予算の関係もあるだろうが、PRが地味すぎる。もっと華やかにPRしないと寂しすぎる。
- 小・中学生向けの企画と小学生を中心とした参加数増を。
- 障害者とその家族、支援者など、うちうちの会のよう。もっと一般市民が参加した会になればよい。
- コンパクトな会場で、エネルギー溢れる音楽の数々を楽しみました。
- 今までで一番印象に残る集いだったと思つた。

リレートーク

わたしはわたし



● 牧野悦子さんプロフィール ●

生年月日：195×年8月25日生
 出身地：北海道
 家族構成：息子と娘と私の三人。自宅の近くに住んでいる両親がいます
 趣味：旅行、映画鑑賞、読書、食べ歩き
 あだ名：クマ

私のあだ名は

クマです

牧野 悦子

私は幼い頃、高熱のため失聴しました。幼稚園からろう学校に通っていたので、友人も聴覚障害者です。自然と手話で会話をし、楽しい学生生活を送りました。聴覚障害ゆえの社会の壁を感じたのは、社会人になってからです。そのため、社会に少しでも聴覚障害を理解してほしいと思うようになり、聴覚障害者協会の活動に取り組みようになり

なりました。

私のあだ名はクマです。名付け親は健聴者のSさんです。健聴者にあだ名をつけられたのは初めてでした。

十四年前、平成七年十一月頃、私は大宮市中級手話講習会の実技講師を担当していました。講習会のカリキュラムには特別講演が数回行われます。ある特別講演の日、手話通訳者はSさんとOさんでした。講演が終わった後、手話通訳者の二人と中級実技アシスタントのYさんは、会場の外で立ち話をしていま

た。私はアシスタントのYさんの自転車を借りて、講演講師を囲む交流会会場に向かいま

した。自転車で乗るのは久しぶりだったので、まっすぐに走れず、ヨロヨロしてしまいました。アシスタントのYさんは交流会会場に遅れて来ました。Yさんは私を見て笑いながら話しかけてきました。手話通訳者のSさんが、自転車で乗る私の姿を見て、「サーカスのクマが自転車に乗っているみたい！」と言い、三人で大笑いをしたというのです。この時から私のあだ名は「クマ」になりました。

冗談を言い合ったり、あだ名をつけて笑ったり、ケンカしたり、日常の普通のことを聞かせる聞かえないという障害に関係なく、共有できることが大切だと思っています。これからも健聴者と共に活動に取り組んでいきたいと思っています。



事務局だより

「ふあくとりーもくせい」は精神障害者の施設としてお弁当屋を経営していますが、イベントがあるときはいつも東北の南部地方の郷土料理である「ひつつみ汁」というのを出店しています。具沢山の汁物で、出すたびに好評をいただいていますと、施設長の斎藤光恵さんから原稿をいただきました。みなさん召し上がりましたか。ほんとに美味しいんです。今回も去年も、物品販売の一番奥で販売していただいて、申し訳ないなあって思っていました。

アンケートにもありましたが、食べ物の売り場は休憩室に近い方がいいかもしれません。来年はよく考えて見ましよう。

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒333-0801

さいたま市大宮区土手町

一三三二一

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七一

FAX 〇四八・六五三・七三三一

http://www.saitama-planet.com/

e-mail saitamacity-handynet@

nifty.com

発行人 望月 武
 編集人 浅輪 田鶴子